夕刊 磐城新聞
十一月十三日發行
定價 一ヶ月金六十錢（郵税拾五錢）
廣告料金 一行金六拾錢（五號十二字詰）
發行所 磐城新聞合名會社
（日曜祭日翌日休刊）

あいさつ

今井邦子

清秋の候、益々御健辯の御事と御祝ひ申上げます
私事、近時健康勝れず、其の爲め諸賢様方に對して心ならぬ御無沙汰致し居り誠に申譯なく存じて居ります

さて、突然のお知らせで御座いますが、此度齋藤、土屋両先生御了解の許に、永年歌道修業の道場として御薫陶を受けし、アララギを出で、聊か虚存に進み度く心組致し、御許しを受ける事に成りました

此事は、或は皆様の御不審を受けるやも計られぬ所でございますが、此れは決して私感情などの、もつれの結果、アララギ脱退と云ふ様な事とは根本より事情を異に致します次第にて、唯私近年、手掛けました若き婦人の人々の爲に、今は何か道を闢じねばならぬ處に立ち至り、止むに止まれぬ事情より、両師に御理解を願ひ、此の擧に出づるもの、呉々も此點、御了解下さる様御願申上げます

願みますれば、大正二年島木赤彦先生に御面接致し大正五年、改めてアララギ會員として入會致せしより廿有餘年、島木先生の心靈より心靈にと、厚き御指導を受け、且つは諸先輩様方によりて、修業練磨され、歌心を育てられたる深き御恩は、此後共に銘じて忘れず、心の指導の中心として參り度く心掛けて居ります

私只今、志す所はささやかな物ながら、遠く遥けく生涯をかけて居ります。しばらく健康回復をまつて、一歩々々所信に進み度い願ひを持ちつゝ、不取敢ず、右御挨拶申上ぐる次第で御座います。何卒、此後とも未熟不才なる私の爲に、従前通り、何彼の御指導給はり度く御交誼の程、御願ひ申上げます

終りに諸家の御健康を御祈り申上げます

（かしこ）

昭和十年十一月

子守歌

秋 志情

ねんねんおやすみ
ねんねしな
坊やは可愛い
ひとり子よ
坊やが泣けば
母さんも
なんだか哀しく
なつてくる
よい子よい子だ
ねんねしな
坊やの好きな
ものはなに
母さん買つて
やるものを
泣かずにねんね
しておくれ

新秋即興（其一）

珠雲 小野務平

千部歳々會凶荒
努力無功缺積倉
却見謳歌起濱海
秋刀魚節福慶長

磐城歌壇推薦

新妻久滿男選

『稲刈り』 野本多霞夫

○炭わりて無言の爵を散じたりすこし冷たき晩秋の夜
◎さわやけき朝の光りの幸ひは父と吾にあり稲刈りはずむ
◎一つゐて柿の下枝啼きうつる目白に寄する今朝の心や
◎かさかさと落葉をふみてくらがりを人出で來らし煙草ふかしつゝ
◎落葉して陽の目あらはの寺の庭靜かに人ら石刻み居り
◎ひとうねの茶の花匂ふ朝の風段々畑に麥播きをする

詩

影

大竹秋平

歌は終つた……一寸
待ち給へ
聲の歌は形に過ぎない
形に消える
歌の眞實の靈は歌が終つても後に殘る

さうだとも
君の胸の波に反響して
私の歌を顫はせる
（それが私の投げた影だ）
君の胸の律動に
私の遥か眞實な遥か白い
靈が語る
その力で
君は塵と哀愁か、高翔する

……晩秋は來た……
秋の紅葉や鳥は形に過ぎない
秋はもつと大きい自然の
秋を
紅葉光り夢に光る
秋の森林を見る
秋が殘す
心の影が夢の林となるのだ

ああ
私は秋と成つて心の影を
世界を飾る秋の森林に宿らせたい
いな私は靈の影を
靈の影を將來のに上投げ……
たいものだ！

潮聲硯静抄帳

運動會
柿拾ひおくれたる子は雨の爲に　武門
灯火したし妻として讀む育兒篇
くつれ築たじ水煙たつばかり　松堂
蜘蛛の巣をかなぐりすてゝ藥採る
秋耕の朝鮮牛を叱りつゝ
月小家藁うつ音のつゞきけり　水明
旅に寢て遠近にきく砧かな
灯をたせる母いそゝと砧かな

11月14日
△獨の科學者ライプニック歿す（一、七一六）△お茶の水に我國最初の幼稚園開く（明治九）△濱口雄幸東京に遭難（昭和五）△四倉の門馬雄三郎鰐ヶ淵に投身自殺（同九）

その日

○

きぞの日の烈風に吹き落された落葉が、庭の此處彼處にこゞんだ吹きたまつて、おの〳〵に音をたてゝゐる

講談 黄金魔刄

（3） 高桑義生作 樋口悦也畫

夜光の土圭（三）

寛之助の足がしびれて起き上ることが出來ない。敵はそういふ彼の體に、いなごのやうに飛びかゝつた

『人違ひだ、人違ひだ』

と寛之助は叫ぶばかりだつた

ギリ〳〵巻きに縛り上げられ、手取り足取りかつぎ上げられると、彼はどうともなれと目をつぶつた。それから地面に投げ落されるまで寛之助は目を開かなかつた。見ると其處は門番詰所といふやうな處で、目の前に水のやうに蒼く澄んだ顔の武士が、あがりかまちに無造作に腰かけてゐる。ジイッと寛之助を見てゐるその頬に微笑が浮んだとおもふと

『小僧、どうだ』

といつた

棒をなげたあは此奴だなと、寛之助は思つた

『人違ひだ』

『人違ひはわかつてゐる。誰がそんな物を着てゐるものか』

寛之助は水色の囚人着を着てゐる。襟には御丁寧に番號がぬいつけたままだ。

氣がつかないのぢやないが寛之助はそれをながめて苦笑した

『わかつてゐたら放してくれ』

『さうは行くまい。一應吟味をしなくては――フヽヽ、放したところで逃げられまい』

その通りだ。牢役人は恐らく脱獄人捕縛の手配を十分つけた時分だ。この服装で飛び出すのは、張つた網に飛び込むやうなものだ。

といつて――

『どうしようといふのだ？……』

武士はそれには答へないで、寛之助のうしろに立つてゐる十數人の者にいつた

『御苦勞だつた。この少年は私が預かる。門はすつかり締めて、かんぬきをかけて置け、何者が來ても入れてはならん』

『ほんとうに人違ひでせうか？人違ひとすると、本者を捕まへなければなりますまい』

『どつちにしたつて後の祭だ。それより盗品の詮議が肝心だ。ひよつとすると、調に來るか――萬が一にもなからうが――。此奴の事は內密だぞ。わしが引受けたからは間違ひなしだ安心して引取れ』

で、一同は彼等の一人だけ殘して、ゾロ〳〵と行つてしまつた

『縄をといてやれ』

と武士はいつた

『ね？』

『縄をとくのだ』

『よろしいのですか。うつかり出來ませんよ、小僧のくせに……』

『かまはぬ、これを貸さう、縄を切れ』

と、武士は脇差をぬいて渡した

『それから……貴様の着物があるだらう、何でもいゝから出して着せてやれ』

その男は門番で、こゝは彼の詰所である。彼はしぶ〳〵ながら内に上つて一枚の縞の着物を持つて來た

『着てしまへ、それでは目立つていけない』

と武士は命じた

寛之助は、この武士の仕打を不審に思つたが、平氣で囚人着をかなぐり棄て、その縞物の袷を着、縄のやうな帯をしめた

寛之助はまだ前髪立だ。つまり元服をしてゐない。少年組だ。けれども、體は十分發育してゐて、もう立派な若者の部だ。まるで百舌の巣のやうな頭髪をしてゐて、顔は垢で光つてゐるが、その目鼻立は、磨けば恐らく球のやうな美少年になるだらう。よく見ると實に愛くるしい。その眼は青空のやうに澄んで、海のやうな深さをもつてゐる。それで額がひろく口が一文字に引いてゐるから女性的ぢやない

武士はしげ〳〵眺めてゐたが

『よく似てゐる……』

『誰に？』

『わしの好きな人に』

さういつて笑つた。笑ふとばかにやさしい目つきになる。寛之助も誘ひ込まれるやうに笑つた

廣告

株式現物賣買
三共商事合資會社
平町大町通り
電話三六〇番

諸橋外科醫院
平町新川町二七
電四六四
内臓外科
皮膚科
花柳病科
レントゲン線
醫學博士 諸橋鐵彌
醫學士 奥義弘

自轉車。リヤカー。
フタバ商會
平・新川町・橋際

開院
五十嵐産婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

冬服特賣
セビロ三ツ組（九圓ヨリ二十三圓まで）
實用向オーバー（三圓八十錢ヨリ九圓五十錢まで）
1936型Wオーバー（九圓五十錢ヨリ二十五圓五十錢まで）
トンビ（六圓ヨリ二十三圓五十錢まで）
モヂリ（三圓ヨリ五圓五十錢まで）
紺サージ外套（六圓ヨリ十圓五十錢まで）
サージ立襟服（上下五圓九十錢ヨリ拾四圓五十錢まで）
正札堂洋服店
平町四丁目 電四三六番

漆器 家具 神佛具 雜貨 文具 裁縫具
小店員と女中募集
卸小賣
近江屋
平町二丁目
電話七一一番

丹野齒科醫院
丹野淳夫
平驛前 電話三八五番

定評有る大塚の靴
丸善製品
◎女學生靴 新製品（目下大流行） スポーツ型 三ツハトメ 五、五〇
△月星ゴム長靴 七文より十一半まで
△ゴム半長靴……入荷
△將校ゴム長靴……入荷
冬のアンダーシャツ 七〇より
純毛スエター 二、五〇より
新型チャンバー 三、〇〇より
同トレーニングパンツ類
防寒スキー靴下及びボーシ
田町の大塚へ
電話七十七番

洋服大特賣
男女用學生冬服豊富に取揃
洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六番

食通の皆様へ申上ます!!!
今なりの
支那上海料理！
一度御試食の程を……
燒賣（シウマイ）は特に自慢で御座います。5個15錢
平・三 警察署通り
喫茶 お食事
今なり

國はニッポン・魚は源魚
日本水産特約
卸小賣
平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛 エビ 白魚 ワカサギ
銀鯛 甘鯛 芝エビ 貝燒
平目 目抜 能鰤 其他
ヒノマル凍魚
四丁目 武者石 ▶印 魚問屋
電三二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
電話一八一番
（小僧さん入用）

東北鑛山勞働協議會 愈々正式に創設さる
濱崎磐炭、小山田入山、前松古河 各代表理事に就任

既報―去る十二日仙臺鑛山監督局において開かれた東北鑛山勞働協議會に基き、この程正式に東北鑛山勞務協議會々則が制定され、今後東北の鑛山業者の勞働問題を協同協議する機關が成立することになつた、會則の主なるものを擧ぐれば左の如くである

總則

第一條 本會は東北鑛山における勞働事務の刷新を計り勞働關係者相互の聯絡を緊密にするを以て目的とす

第二條 本會の目的とする事業は左の如し

一、勞務に關する諸般の調査、研究に關する事項

二、講習會、講演會の開催に關する事項

三、その他本會の目的を達するに必要なる事項

第三條 本會は東北鑛山勞務協議會と稱し事務所を仙臺鑛山監督局鑛政課に置く

（中略）

なほ役員は會長後藤仙臺鑛山監督局長、理事長白井鑛政課長、副理事長榎本技師であり、地方關係の理事として（磐炭）濱崎副所長（入山）小山田（古河）前松兩人事係長が選任された、因に現在鑛山協會東北支部には會員として管內三十二鑛山しか加盟してゐないが今後は益々組織を擴大して他鑛山にも他加盟方勸奬の意向だが、鑛夫の勞役、雇人解雇、福利施設増進等の諸問題につき今後右協會は活動をなすべく、時節柄鑛夫の退職手當金積立法案に關しても、東北の特殊事情に鑑み種々問題が研究されるものと見られる

中等生の父兄に 負擔増加約五千圓
授業料値上で地方

明年度本縣豫算は昨十二日午前三時漸く知事の査定を了したが總額約九百萬圓中三萬圓の新財源として論議された中等學校の授業料增額は從來四圓の中學校同三圓八十錢の女學校とも各々二十錢を値上げする事となり、之を基本に現在數から概算すると千百四十五人の生徒を有する磐中は一ヶ月二百廿九圓この年額二千七百四十八圓を、收容八百三十一名の磐女は月百六十六圓二十錢、年額千九百九十四圓四十錢、即ち平町關係の合計四千七百四十二圓餘を增收するわけである

小名濱町酒造組合協議

小名濱町酒造組合では更に範圍を擴張し酒類販賣店も加へて酒造販賣組合と改稱する事になり今十三日午前十時から町役場にこれが準備協議會を開き品質の向上販賣統制などを協議した

殘餘は來春續行
漸く年末の切迫に 平町鋪裝一時打切り

漸次各方面の鋪裝を進めてゐる平町では田町白菊酒店附近の十字街を四方に了し五丁目地內國道の完了を待つて今度は四丁目マルトモ横停車場通り新道のコンクリート工事に着手する筈であつたが、年末も近づいたので今後の着工による沿道各商店の迷惑も少くないので明春三月に延期、年度內に完成する事になつた

尙町では目下豫算編成に際し明年度實施區域等も考慮中であるが豫算縮減の折柄經費の地元半額負擔によれば實現の可能性も多い事だらうと望でゐる

上遠野村水害復舊
愈々町村工事申請

上遠野村深山田、寺臺、髙須川、堀部落は過般の豪雨で上遠野川が氾濫し橋梁は流失、田圃道路は何れも欠潰して村民の不便困惑も甚しく地元有志者から連日のやうに陳情を受けてゐる平

○○○○ 內務技師踏査 內務省土木局小澤技師は今十三日來郡、小林所長の案内で管內七、八年度匡救事業の檢查を行つた

縣下兒童唱歌會
十七日福島から實況放送

縣唱歌科教育研究會は來る十五日より三日間福島市に於て開催されるが本郡よりの出席は左の如くうち澤渡校駒嶺教員は『複式教授に於ける唱歌教育の一考察』なる研究發表をなす、なほ十七日には午後一時より同市公會堂に同會及び縣主催の下に縣下小學兒童唱歌會を開きその實況はＨＫにより中繼放送される

平第一 武藤貞輔　錦 北郷進　磐崎第二 志賀遼平　豊間 鈴木孝正　澤渡 駒嶺重郎

○○○○ 兒童清掃奉仕 明後十五日より三日間の赤十字デーに際し平町各小學校兒童が分擔、町內の神社境内淸掃を行ふ

昨日風伯大暴れ 在所に小被害多數
通信故障何れも復舊

一昨十一日の烈風に襲はれた地方ではさきに被つた大被害に鑑み何れも警戒したので海岸其他に大災害こそなかつたが小煙突、板塀、看板の倒壊、屋根の剝離等小被害は相當の數に上つてゐる、警察電話も昨十二日早朝から坂下其他二線が不通に陷つたが午後三時頃に至つて復舊を見た處今度は夕刻に至つて豊間村小學校附近の電柱二本が倒壊これ亦不通になつたで目下作業中であるが今午前中に復舊した

例年より 早く冬の訪れ
山間部地方に 四五寸の初雪

冬が來た――石城地方は一昨十一日來氣温もメッキリ低下して通行人は俄に冬の裝ひをする騒ぎ十一日夕刻からの冷雨は十二日午前三時頃に至つて山間部方野は雪になつた、初雪だ！澤渡は一寸、三阪の山峡には四、五寸も積つてこの急激な冬の訪れに駐在巡査は『初雪の件……』を報告に及んだ、昨冬の初雪一月十一日（神谷農試分場調査）より二ケ月も早くやつて來た事になる、サア冬ごもりの仕度が肝要です

○○○○ 第二裁縫指定授業 平第二校では今十三日裁縫科視學委員相馬高女教諭氏家敏氏の巡視に際し午前中同校四女教員により指定授業を行ひ午後講評講話を行つた

縣刑事協會で 町の警官表彰

小名濱町磐城座營業主任小林久雄（三二）さんは去る八月二十三日夜同町千秋一方に浸入した泥棒太田原源四郎（四〇）逮捕に際し應援、又同町古港黒木屋呉服店志賀清次郎並に隣家の酒商加藤要兩氏は去る九月二十六日夜清次郎方に忍び込んで五十錢を强奪した千尋庄八（三八）を取り押へた廉により昨十二日何れも縣刑事協會から金一封を添え彰表された

果して泥棒
睨んだ不審男 植田署員が怪しと

十二日深更植田町地內を大風呂敷を背負つて徘徊してゐる擧動不審の男あるを署員が調べると、右は當時住所不定水野利行（三四）で去る八月十三日夜內郷村宮澤販賣所より白米三斗を搔つ拂つたのを手初めに前後十數回に亘り白米専門に盗み廻り、尙去る十日夜同村髙坂御殿販賣所より自轉車一臺（價格二十餘圓）を竊取した事を自白してゐる、目下餘罪追究中

品川白煉瓦 藤田氏榮轉

品川白煉瓦會社湯本工場長藤田茂氏は今回同社重役に拔擢され岡山工場長に榮轉十三日赴任する、後任は岡山工場事務主任服部梅雄氏に決定

勇敢な三君のお手柄
不敵の晝泥（前科四犯）を捕ふ
仕事にあぶれた元坑夫

今十三日の朝九時頃好間村大字上好間字今宿農渡邊房治さん方に頰かぶりした一名の賊が侵入、物色中を折よく野良から歸つて來た房治の婿貞治（四二）さんが發見誰何すると矢庭に抵抗して貞治さんの股間を蹴飛ばし逃走せんとしたが、これにひるまず貞治さんが組みついてゐる騒ぎを聞きつけて隣家の消防小頭大平光明さん外一名が馳けつけ三人協力で忽ち此の賊をくゝり上げ駐在所に突き出した

右は當時同村大字北好間居住伊達郡太田村生れ竊盗前科四犯大山廣（四七）で最近迄萩原、隈田川炭鑛に坑夫として稼いでゐたが仕事にあぶれてゐたもので目下平署で取調べ中だが餘罪もあるらしい、尙前記御手柄の三君は近く同署から表彰される筈

盗んで遊興へ
地方荒し近く公判

住居不定無職相馬郡八澤村南海老生れ竊盗その他前科六犯浦尻織喜（三〇）が昨年十一月四日福島刑務所を出獄後去る四月中泉村驛前劇場へ忍入り衣類、現金等竊取したのを手初めに

泉　磐崎　江名　錦　鹿島　小名濱　草野　大浦　双葉郡浪江　廣野　久の濱　相馬郡小濱　八澤　鹿島　石神　眞野　茨城縣多賀郡大津　王澤　千葉縣銚子　北浦道廣尾郡大樹村

等四十數件に亘つて土藏荒し、空巢ねらひ等々を働き古物商に情を明かし賣却しては小名濱町料理業浪花亭こと寺西セイ方で遊興費消した事件は近く平區で小林判事係り清田檢事係關與公判開廷される

芋蔓式に關係者現はる

前記浦尻から情を知つて贓物を買受け又は保管を引受けた植田町堂ノ作精米業赤津春次（三七）に係る贓物故買及收受事件は明十四日同じく小林判事係り、清田檢事關與、千葉辯護士立會公判開廷する、又同町堀田安之助を經又は直接浦尻から贓品を買受け所定の記帳を怠つた植田町金畑古物商吉田安左衞門（五〇）は略式命令で罰金二十圓

松村亨氏 醫大復歸

名古屋醫科大學齋藤外科教室松村亨氏（平町松村病院長息）は先年來秋田縣山本郡醫療組合二つ井病院に在任中であつたが今回前記教室に復歸研鑽を續くる事になつた

○○○○ 大野村長決定 大野村長吉田盛治氏は此程任期滿了により改選の結果産業組合長醫師木村正夫氏に決定した

獵職悲曲
仕事が見當らず 青年毒を仰ぐ
未遂に終つて綴へ歸る

內郷村大字綴字一の坪七武美弟小林明（二二）は數日前から相馬郡原町方面の知人を頼つて就職を見つけに行つたものゝうまい勤め口もないのに悲觀、昨十二日午前八時頃同町某宅でアダリンを多量に嚥下自殺を圖つたが間もなく發見され未遂に終り小髙町山田醫院で應急手當てを加へた結果夕刻に至つて意識回復したので武美が引取りに向つた

風荒ぶ黄昏の街に 母親を捜し泣く
江名から迷ひ出た男の子

昨十二日の夕刻、本町通りを吹き飛ばさるゝ樣にシク〳〵泣きながら母アちやんを捜し歩いてゐる半ズボンをはいた片目の小兒を附近の者が色々なだめて聞いても『江名町』丈けでサッパリ判らず結局平署に届けられ小使部屋に泣き寢入りした

右は江名町南町居住齋藤義枝さんの長男貞弘（七）君で最近山形から母と共に叔父の齋藤泰次郎さんところへ移つてきたばかりで土地の案内もわからぬのに、きのふの晝頃何の氣なしに平―江名間の乘合に乘り込んで平町まで來ちやつたもの

それとは知らぬ義枝さんが吃驚、人手をかりて江名町中探し廻つた結果、初めて其筋に保護されてゐる事が判つたので早速ハイヤーを飛ばして可愛い吾子をひき取つて行つた

職工見習募集

一、小學校卒業程度十七歳迄町內居住者に限る

一名

希望者履歴書送付あれ面會日通知す

○○○○ 勿來農事協議 勿來町振興會では十四日午後一時より役場に地主と小作人を集め今年度小作米に就き協議する、尙優良小作人の表彰を行ふ

○○ 竊盗 內郷村大字宮字金坂四七前科一犯伊藤勇治（三二）は一昨年から磐炭其他より鐵屑一回十貫乃至二十貫位づゝ十數回に亘り竊取これを山田鐵工所に安買した事發覺、平署に檢擧された

○○○○ 種馬補助交附 郡內災害地に對し農林省では此程災害地蕃殖牝馬種付補助として蓄馬組合に一千九百三十三圓五十五錢を交附された

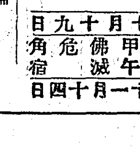
○○○○ 消防視察團來郡 栃木署管內消防組頭一行二十五名は十三日午前來平、平、好間兩消防施設を視察

○○ 横領 好間村大字北好間字丸田一炭鑛雜夫鈴木存行（三九）は內職の京染物取次ぎ外交中澤渡村上市萱加藤龜次より引受けた絹白地一反（價格十餘圓）の外同樣十數件の横領を働き十二日平署に檢擧された

十四日（小名濱測候所調査）

日出 六、一〇　月出後 七、四一
日沒 四、三二　月沒前 九、四三
滿潮 前七、一五 後五、一〇　干潮後 一一、五五

舊十月十九日 木曜 甲午 佛滅 危 角宿
新十一月十四日



諸判定總鑑 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 萬事有望なる展開を見るべく奮闘するが吉▲二黒 巧言に迷ひて失敗の餘波は永く殘るべき日▲三碧 一家足並そろへて業務に親しめば安全なる日▲四綠 悲觀をはいし樂觀的に事物に臨むが有利なり▲五黄 むくはるゝ所些少なれども忠實なれば後に吉▲六白 萬事差控へて手出しせぬが安全病難は注意▲七赤 輕忽に事を誤り意外の難關にそうぐうすべき日▲八白 力量に無理ありて痛手をかうむることあり注意▲九紫 方針を誤ればてん落のうき目を見る危險なる日

廣告

外科 安齋醫院 平町田町 電四七五番

井坂醫院 平町田町 電話五五九番

類燒 改築三週年記念

スポーツに紅葉狩りに秋冷快適の折からハイキング、ピクニツク等の砌是非御立寄を御願致します。因みに價格は左の割引を以て御客樣の御愛顧に酬ひんとする弊店の意の在る所を御酌取り下さい。

ヒレナベ（御一人前）四十五錢ヲ四十錢
ロースナベ（同）三十五錢ヲ三十錢

平町田町 石川亭 電話四三番

贈答物に 鰹魚節

御値段ハ御相談ノ上如何程にても御自由です。

日華生命保險株式會社平代理店

平町四丁目 宍戸屋商店 電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

過般列車遭難の奇禍に際しては早速御懇篤なる御慰問を辱ふし感激の至りに奉存候、爾來髙久病院に入院加療中の處漸く小康を得去る九日歸宅致し候に付乍他事御省念被成下度乍略儀以紙上御挨拶申上候 敬具

十一月十二日

平町大町 山野邊陽

磐城共濟病院（福島縣平町 電話六四一番）

內科 院長 醫學博士 石山謙郎（電話六四一番）
小兒科 部長 岩手醫學士 佐藤尚輔
產婦人科 部長 醫學士 黑澤廣
外科 部長 醫學士 大町久藏
耳鼻咽喉科 皮膚泌尿器科 花柳病科 部長 醫學士 前澤正（電話二七二番）
X線療科 醫學博士 石山謙郎 技手 石山彪
藥局 藥局長 藥劑士 吉本孝平
物療科
事務長 鈴木寶雄

◎毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎病室完備 入院隨意

問題外

平會館は只料理と酒がウマイだけのここで其の他は凡そ意味ないレストランですよ